

新しい共生ケア制度に期待するもの

- ▶ 特定非営利活動法人
- ▶ このゆびと一まれ

1. みんなが一つ屋根の下で過ごすことは日本の文化である

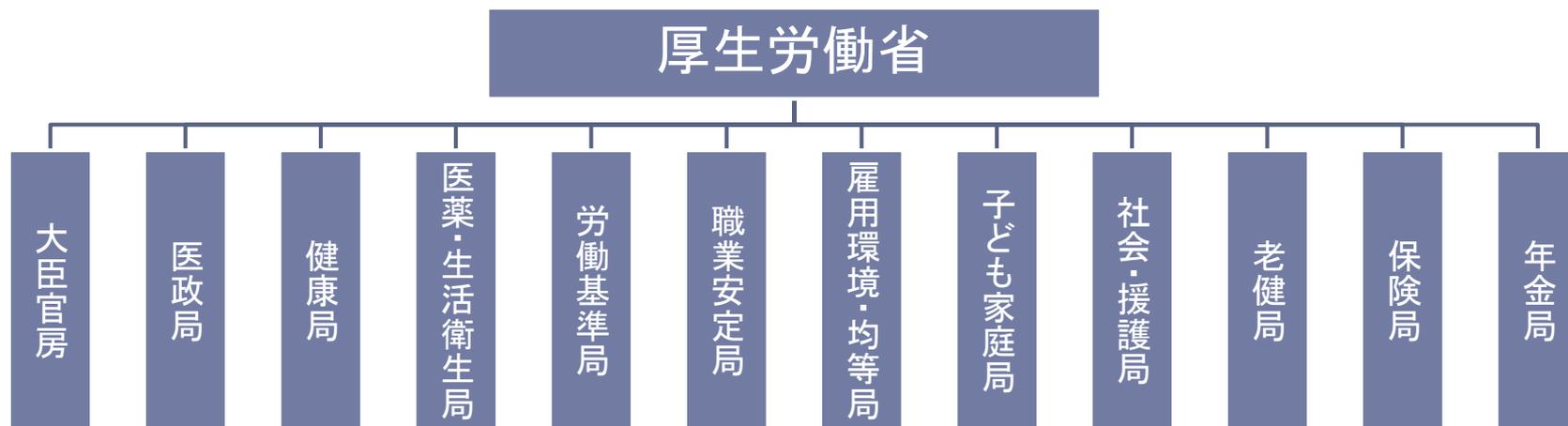
お年よりは赤ちゃんの顔を見ただけで笑顔がでる



「この子達といると気がはれる」

2. なぜ、共生ダイケアサービスが生まれなかったのか

1) 縦割行政



2) 福祉大学のカリキュラム

はじめに学ぶこと

福祉6法

「生活保護法」

「児童福祉法」

「身体障害者福祉法」

「知的障害者福祉法」

「老人福祉法」

「母子および寡婦福祉法」

を学ぶ

次に学ぶこと

「地域福祉とは何なのか」や
「地域のニーズ・課題」など
を学ぶ。

順序が逆の方がよいのでは？

3) 専門家と言われる人達が否定

いい介護・支援ができない。
老人のプロや障害者のプロにまかせるべき

※地域福祉担当の大学教授は賛成
「地域には色々な人がいるではないか」

3. 今、なぜ共生型なのか

1) 共生の理念

- 支えたり、支えられたり
- 他人事ではなく「我が事」として
- 「社会的孤立」や「制度の狭間」の増加
- 「縦割り」から「丸ごと」の地域作り
へと転換



2) 65歳の壁(障害者が長生き)
総合支援法→介護保険法に

3) 中山間地・島・僻地・被災地など、
急激な人口減少

4) 待機児童の増加
「保育園落ちた、日本死ね」

4. 今まで障害者(児)と関わったことがないのに支援ができるのか心配。

理念はわかるけど・・・。

1) できます

人間はみんな一緒です。

人間のニーズは70%同じ。30%は特性がある。

※言葉が通じない外国に行っても臓器移植が可能なのは、同じ人間だからです。

2) まずは障害者(児)1~3人からの利用を引き受けたらどうでしょうか。

経験することです。はじめての子どもを育てるのに、色々なことがあったと思います。それと同じです。



3) 共生型は面白く、やりがいがある。

共生型は全国で1700事業所があります。
開所して3年～10年経った若者達？が、「面白くてやりがいがある」と言っています。
だから、辞めることは考えていませんと。



5. 4月からはじまる共生ケア制度に期待すること。

1) 地域(町村)の拠点に

- 相談支援事業、居宅支援事業
家族単位でケアプランを。
 - 運営推進会議(地域密着型、通常型)
 - 町内の役員・会合・行事
-
- 

2) 町内の人達の困り事の相談窓口



3) 町の開業医やコンビニ的役割

- ・開業医は赤ちゃんからお年よりまで診察し対応している。→総合病院→大学病院
- ・コンビニは全国に6万事業所。デイサービスも6万事業所。

※開業医とコンビニは地域の人達の駆け込み寺の役割を果たしている。

4) 経営の安定化

介護保険のデイサービス事業所は作り過ぎて、稼働率が50%~70%と言われている。このゆびの利用者はお年よりよりも障害者(児)が増えてきている。



6) これからめざすもの

ともに育ち、
ともに暮らし、
ともに働く、
地域社会をめざす